

第2回人吉市復興まちづくり推進会議 議事録

日時：令和6年11月26日(火) 10:00-12:00

場所：市庁舎3階庁議室（復興支援課前）

出席者：[委員]

人吉市長

人吉市社会福祉協議会 会長

熊本県立大学 教授

東校区支部 支部長

西校区支部 支部長

人吉市消防団 副団長

人吉商工会議所 会頭

人吉温泉観光協会 代表理事

人吉市文化財保護委員会 委員長

青井阿蘇神社 宮司

人吉市PTA連絡協議会 会長

(一社)ひとよし球磨青年会議所 理事長

国土交通省 八代河川国道事務所 所長

熊本県 球磨地域振興局 局長

熊本県 球磨川流域復興局 政策監

松岡 隼人

柴田 祐

吉田 力

中村 良郎

皆越 英世

岩下 博明

鳥越 英夫

井上 道代

福川 義文 (欠席)

永田 政司

北 貴之

飯島 直己

田口 雄一

中川 太介

[事務局]

人吉市 復興支援課

竹内 常泰 次長、田中 健志 係長、山田 千夏 主事

[デザイン会議 座長]

熊本大学 教授

星野 裕司

[デザイン会議 プロジェクトマネージャー]

人吉市 復興政策部

ハートビートプラン

溝口 尚也 部長 (溝口 PM)

泉 英明 代表取締役 (泉 PM)

[デザイン会議 随行]

国土交通省 九州地方整備局

熊本県 球磨川流域復興局

人吉市 復興政策部

一ノ瀬 誠 課長

平木 佑弥 参事

緒方 竜二 政策統括監

資料：【資料1-1 人吉市まちなかランドデザイン推進アクションプラン素案 本編】

【資料1-2 人吉市まちなかランドデザイン推進アクションプラン素案 概要版】

【資料2 市民／事業者への共有について】

【資料3 復興まちづくり推進会議年間スケジュール】

記録：田中

【決定・承認事項】

1. これまでの取組について報告
2. 人吉市まちなかランドデザインアクションプラン素案について承認
3. 市民/事業者への共有について承認
4. その他/日程について確認

【議事録】

(1) 開会・市長挨拶

(松岡市長)

- ・ 推進会議の委員の方には当会議に出席いただき感謝を申し上げます。また、デザイン会議やヒアリングなどを行い、「人吉市まちなかグランドデザインアクションプラン素案」(以下、アクションプラン素案)を作成いただいた関係機関の方や専門家、関係者の方にも感謝を申し上げます。
- ・ R7年の豪雨災害から、これまで「人吉市復興計画」、「人吉市復興まちづくり計画」、「人吉市総合計画」などを作成してきた。そして災害復旧と災害により顕在化した課題解決に取り組んできた。その中で住民からは人吉らしいまちづくりをしようということも多くの方から伺った。
- ・ 自然・歴史・歳時記・日常の生活をどう表現するかということを問われていたが、アクションプランの中で、その人吉らしさを示していただき、ワクワクしているところである。今後世の中や人は変わると思うが、本市のこの先の未来に向けたバイブルとして、これに則ったまちづくりを行っていきたい。
- ・ 孔子が2500年前に訴えた「近きものが喜びて遠きものが来たる」という言葉が良いまちを体現していると思う。その理想の姿は2500年前から変わらないと思う。
- ・ また、まちを持続発展するためには、地域に住む者が地域に対して誇りを持ち、昨日より今日、今日より明日と少しずつ成長すること、次の世代へと繋がっていくこと、これが持続発展だと思っている。このまちの持続発展のために、役所だけでなく、誰かがやってくれるだろうという気持ちでなく、1人1人が主体性をもってまちをつくり続けたいと思う。本日は皆さまの思いや意見を賜るとともに、今後も人吉のまちづくりに引き続きご協力をお願いしたい。

(2) これまでの取組報告

(溝口PM)

- ・ 8月に実施した第1回目の推進会議の後にデザイン会議を4回実施した。昨日4回目のデザイン会議終え、推進会議へ臨んでいる。また、デザイン会議の間に12のTFをそれぞれ実施した。
- ・ また、「人吉市グランドデザイン推進方針」(以下、グランドデザイン)について、既存のまちづくり協議会に説明を行った。中心市街地地区・青井地区では各まちづくり協議会の中で、麓・老神地区についてはかわまちづくり協議会と合わせて、グランドデザインと推進体制について説明を行った。
- ・ そして、推進体制と公民連携の進め方に関する庁内での勉強会を10月に行った。
- ・ そのような経緯を踏まえ、アクションプラン素案を作成している。

(竹内次長)

- ・ 上記に関して、質問等はあるか。
(委員から質問無し)

【協議事項】

(3) 「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン素案」の説明

【資料1-1 人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン素案 本編】

【資料1-2 人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン素案 概要版】

(溝口PM)

- ・アクションプランの位置付け（本編P4）について説明する。復興計画のなかで重点3地区についてはまちなかランドデザインを策定しており、それを元にハード整備後の運営主体・方針・財源等を想定し、民間投資と連動したハード整備を目指すことが目的である。民間・専門家・行政の意見を重ね合わせたワクワクするアイデア集という位置づけである。
- ・大事にしたい価値観として、まず市民生活の満足度向上である。地域が大切にしてきた人吉の個性を磨き、生活の満足度が向上し、それにより来街魅力を向上させ、結果的にそれが観光地としての魅力向上となり、それにより地域に再投資が生まれるという循環を生みたい。つまり地域満足度の向上と観光地としての両輪のサイクルを目指したいという考え方である。
- ・作り方としては、民間・専門家・行政のアイデアを重ね合わせる。財源や工事時期等の関係で変わってくることもあるため、更新前提のプランである。今年度末に時点版のアクションプラン完成を目指している。
- ・現在は素案として取りまとめた内容を提示している。これをたたき台として、各エリアの意見交換や民間事業者のWS等を経て、アクションプランの時点版を策定したいと思っている。
- ・アクションプランについては、行政のみで実現できるプランではなく、将来主体となる民間事業者や市民が重要である。現在掲載していない内容についても、今後主体や事業・活動が具体化すれば、順次追加することも前提としている。
- ・アクションプランでは全体の考え方を共有したい。各TFの具体的な事業については更新を前提とする。

(泉PM)

[第1章 アクションプランの背景と目的]

- ・デザイン会議は行政・民間・専門家で構成されており、全体で30名ほど参加している。行政は国・県・市が参加し、専門家はランドスケープ・照明・交通・情報発信・公民連携の専門家がおり、星野先生が座長である。
- ・これまでに民間の方50名ほどにヒアリングを行い、復興まちづくりで大切にすべきことやアイデアを伺い、プランに取り入れている。
- ・アクションプラン素案では10の拠点を設定している。ランドデザインの中では区画整理や治水事業があるエリアがメインであったが、今回はそれ以外の特徴的なエリアや回遊してほしいエリア、既に地域の活動が行われているエリアも拠点としている。
- ・このプランは完成形ではない。全て行政が実現できるものではなく、こうなったらいいのではないかという方針である。また、それに対して何かの活動や投資したいという人のアイデアを盛り込むためのたたき台と考えてほしい。
- ・アクションプランの位置付けを木に例えると、人吉の風土や資源としての土があり、ランドデザインという根があり、エリアに共通するところは回遊、ランドスケープ、夜間景観、交通、情報発信など幹になる部分である。枝葉のところは、10の拠点であり、市民・民間事業者・専門家・行政のアイデアを盛り込んで作成しているが、これについては今後地域の方に入っただいて、新しい事業を作っけいながら、更新することを前提としている。この幹と枝葉のところを、今回のアクションプラン素案として提案している。

[第2章 アクションプランの考え方]

- ・これから民間の方と意見交換やWSをしていくが、行政がビジョンを作りハード整備を行いその場所を使ってくださいという進め方では、使う人がまちのビジョンにも関わらず、結果使いにくい使

われないう場になつてしまう。今後数十年とエリアの価値を作つていくのは、その場所を使い運営する人たちである。そのため、この場所を使いたい人がこんなまちにしたい、こんなハードにしたいという考えを、ビジョンに反映させ、来年度社会実験を行い、事業として成り立つか、地域と合意形成が図れるかを確認して進めたい。誰が運営マネジメントを行うかをイメージした上で進めて行くのが今回の進め方である。

- ・復旧のハード事業は動いていくが、基本的にはそこで運営する候補の主体と社会実験を行い、ハードに反映することをイメージしている。ビジョン策定からその後の運営管理まで一貫通貫で進めることがポイントだと思つている。
- ・各エリアやテーマごとにタスクフォース（TF）と呼ばれる検討チームがある。今は行政と専門家のメンバーだが、今後は各TFに事業をやりたい方や既に何か活動されている方にも入ってもらい、一緒に何ができるか考えていきたい。
- ・社会実験もイベント的に短期間実施するのではなく、1年くらい前から計画を組んで1ヶ月ほど長期間実施し、日常に馴染むかということを検証したい。中川原公園は今年度最低限の復旧工事しかできないが、来年度はどう使っていくのか、あるいは増水した際にどう避難するのか、地域の人に受け入れてもらえるのか、収支は問題ないかといったことを2025年に検証する。2026年にはどのような使い方なら問題ないのかという利用ルールを作成したうえで、どんなハードが必要なのかということを考えながら1年間使ってみる。2027年は今後中川原公園を運営管理する民間事業者の体制等を考え、2028年以降で常設化するというようなことを計画的に考え、段階的に進めていきたい。

[第3章 エリアの回遊の楽しみ方]

- ・清流球磨川の恵みを感じて、どのような体験をするか、そしてそれを実現するハード整備が大切だと思つている。これまで歴史のストーリー・原風景や生業・産業を体験できる、上下流のつながりをどう生むのかという議論を行ってきた。
- ・まちなかの回遊の仕方については、魅力的なエリアをどう結ぶかということを考え、メインの回遊動線を明記している。球磨川両岸を一周できることや、川上と川下がつながること、山田川・胸川が飛び石でつながるといったことを考えている。ピンクで記載されている道については人が快適に歩けること、また一定の灯りがあることを考えている。

[第4章 生活復興・観光まちづくりの推進方策]

- ・ランドスケープについては眺望の仕方について記載している。球磨川をベースに見る見られる関係をどうつくるかというようなことや、道路や川など様々な視点からの見え方、通りの個性の作り方について記載している。

(長町氏)

[第4章 生活復興・観光まちづくりの推進方策]

- ・夜間景観については、過去の市民意見などからも球磨川の風景が最も重要であると理解しており、右岸側からの見え方を大事にすることを明記している。市内中心部は、現状は暗い場所が多いが、これまで観光的な施策で青井阿蘇神社・老神神社・永国寺などの民間施設に関してはあかりが灯っている。
- ・公共照明は復興計画による道路や広場の整備が終わっていないという状況であるため、今後各所の照明改修実施することが望ましいと記載している。例えば胸川と中川原公園はフォトジェニックに見える、新町は暗がりを払拭するというように、観光的な魅力としてあかりを灯すということだけでなく、市民生活のために必要な安全・安心のためのあかりを整えていくということが重要で、現在暗くなっている織月酒蔵の前なども計画に入っている。また、市や県の方と議論する中で、国道

445号線をはじめとする主要な道路の照明を修復することも含みながら、10の拠点の魅力を夜間景観の視点からつくることをイメージしている。

(泉PM)

[第4章 生活復興・観光まちづくりの推進方策]

- ・照明は説明の通りであるが、これが全て実現できるとはまだ決まっていない。
- ・交通については、現状外から来る人は人吉ICから来ているが、ハブ機能が弱いため、人吉ICなどの拠点にはモビリティハブを作りたいと思っている。車で来てシェアサイクルやスローモビリティ、タクシーなどに乗りかえる拠点を、既にある施設に設置してはどうかということや、鹿児島空港からのシャトルバスをつばめタクシーが運営されているが、バスで来て、アクティビティの予約もできるMaaSのような取り組みを考えている。
- ・ランドバンクについても記載している。例えば東日本大震災では津波があり、復旧を終えた後でも半分程度更地になっている。それは当然のことで、今後は全国各地で人口減少が進み、人吉でも必ず全ての敷地に元通り建物が建つわけではないことが想定されるなかで、空き地をうまく流動させ、オーナーが土地を所有しながら別の主体が運営できるようなマッチングの仕組みがあると良いと考えている。海外ではいくつか事例があるが、日本ではまだ成功事例がない。空き地を上手く使って子どもの遊び場にする、暫定的にショップを運営する、あるいは雨水が浸透する雨庭のような場所にできないかというようなことを考えている。
- ・情報発信については、現状の復興まちづくりの情報が市のHPで公開されているが、市民には分かりにくく、それでは誰も見てくれない。それを分かりやすいかたちにして情報発信すべきと考え、現在も記事を作成しているところである。それと合わせて、公式な記事だけでなく、市民の方がまちで動いていることや関わっていることを自ら発信してもらえるように、市民やメディアの方も含めた発信の方法についても検討している。それができると、人吉で面白い活動を行っていることが外にも伝わると思っている。
- ・景観ガイドラインも充実したい。サインや地域経営も今後考えたほうが良いと考えている。
- ・ここまでが幹となる部分の提案である。これから葉っぱとなる10の拠点エリアについて説明する。
- ・青井エリアについては、これまでに示されたパース図とさほど変わっていないが、青井阿蘇神社と川を結ぶ参道をつくることや、ライトアップもセットで考えている。この場所はTFで県と市と一緒に、エリアの一体的な整備による魅力や回遊性向上を実現するための舗装の設えなどを検討している。また、ゾーン毎に生活者と観光客の使い分けについても考えている。全てのエリアに共通するが、ヒアリングの際の皆さんのご意見や過去の協議会やWSの意見を整理して「地元市民・事業者の声」として記載している。
- ・中川原公園については、青井・中心市街地・城跡・新町の4つのエリアをつなぐ全体のハブになる場所だと思っている。中川原公園は最も活用のニーズが高く、今までも色々な使われ方がされており、今後は利用ルールを作ることも必要にはなるが、一番ポイントとなる場所だと思っており、市民の憩いの場にしたい。大橋を週末やイベント時に車を通行止めにして、大橋と中川原公園をセットに楽しめる空間にできないかということや、鍋屋やあゆの里等の河川沿いの交通量が少ない管理用通路部は、通路の部分にデッキを設置すれば良い空間になるのではないかと考えている。また、大橋の中央部にリバーベースを設置して、ここでしかない眺望を楽しんだり、川でのアクティビティグッズの貸出や飲み物を買える最低限のサービスがあればよいのではと考えている。それから、例えば上流の公園は様々なイベント活動もできる場所にして、下流は日常的にゆっくりとくつろげる場所になるといいのではないかとということや、夜景としては大橋と中川原公園を明るすぎず霽

気の良い明かりで照らすこと、石垣をライトアップして右岸側から見るといいのでは考えている。今年度は災害復旧工事までしかできないが、今後2〜3年社会実験を実施して、必要なハードや運営体制等を確認した後にハード整備に繋げていくイメージである。中川原公園は昔からまちの中心部で、町人地と城下町を結び、2つの橋の交点となる象徴的な場所である。今までの社会実験の結果もプランに反映している。

- ・ 胸川は安全で遊べる場所であるため、川遊びの場所として位置づけ、飛び石を設置したり、城跡からアクセスできるようにしたり、階段を緩やかにして下に降りやすくしたいと考えている。
- ・ 鶯温泉は交流・文化の場所としており、メインは緑を多く配置してエリアを繋げたい。また、緑の良い空間をつくることで、それに接する建物に投資が起きるのではないかと、そしてそこにサードプレイスをつくることのできると思っている。子供が安全に遊び年配の方がゆったりできるという空間が今はないので、社会実験では緑を配置してそれを実現できればと考えている。
- ・ 山田川は堤防の工事の高さまで嵩上げされるということで川沿いの道がいい空間になる。店が川に開いたり、人の居場所ができたり、川の下までアクセスができたり、飛び石で川を横断したりできる空間になる。このような場所は夜間景観も生きる場所であり、川沿いもライトアップしたいと思っており、中心市街地が変わるとここもいい雰囲気になる。新たに公園ができるため、雨水が浸透する機能もあればよいのではないかと議論している。
- ・ 鍛冶屋町は既に色々な活動をされており、かつ景観協定もあり更新を続けていて街並みを保全している。ゆうれい祭りなどの活動や、お茶や味噌、大学と連携したアートイベントなど、文化的な活動が今後も実施されると聞いている。夜はオリジナル提灯を設置することや、夏目友人帳のライトアップを引き続き実施する想定である。
- ・ 駅前には現在SL人吉のところに仮設の屋根が設置されているが、将来的には格納庫を作ることや、JRからいただいた貴重な展示物を展示する空間を整備すること、肥薩線の上下分離により駅舎の取り扱いが変わることなど複数の動きがあるため、既存駐車場の敷地も使いながら、駅周辺も含め、全体の再整備計画を検討することを明記している。
- ・ 城見庭園は、元々コミュニティ施設を建設するという話であったが、周辺の町会長らと話をする中で、建物を建てず、城跡を眺望できる開けた空間にしたほうが良いということで、デッキを設置して魅力的な空間にしようと考えている。またHASSENBAと上手く連動させ、HASSENBAで買ったものをここで飲食するということや、艇庫を使用する高校生が城見庭園の維持管理や何かの活動に関わることもイメージしている。ライトアップは対岸の城跡が美しく見えるようにする。
- ・ 城跡は、既に整備計画はあるがその見直しを市で検討しており、その考え方をアクションプランにも盛り込んでいる。歴史館は来年度オープンするが、歴史館だけでなく、周りの車道を無くして人の空間にできないかということや、石垣が上手く見えるように樹木の剪定をすること、東側の公園をキャンプ場にできないかということを考えている。人吉らしい城跡を照らすライトアップにもこだわっている。新町など色々な場所からの見え方についても考えている。
- ・ 新町は城跡が目前にあり、織月酒造や堤温泉、武家屋敷、永国寺、老神神社などがあるエリアであるため、観光客も良く訪れる場所である。それに加え、医療センターもあるため通院の方も往来する。ただ、現在は真っ暗なので最低限の明かりを灯したいと思っている。また、新町プロジェクトの皆さんの取組も引き続き実施されると聞いている。
- ・ 10の拠点については来年度以降住民・事業者の方と一緒に考えていきたいが、そのために、今年度は事業者WSなどで提案をブラッシュアップしていきたい。
- ・ 本日はこの全体の考え方についてご意見をいただきたいのと、今後各エリアで地域内外の方に関わっていただくことや、この場所に来ていただける工夫についてもアドバイスをいただきたい。

(松岡市長)

- ・上記に関して、質問等がある委員はいるか。

(北委員)

- ・民間の投資が生まれるようなまちにするということだが、やはりまずは市民生活の満足度向上に努めることがそれに繋がると考えている。ハード事業が前面に出ると思うが、ハード事業と情報発信の予算比率についてお伺いしたい。

(泉PM)

- ・ハード事業の工事にかかる費用は非常に大きいため、情報発信の費用とは桁が違う。ただ、ハードの設計や考え方の部分については、情報発信にかかる費用と大きく差がないと考えている。

(北委員)

- ・多くの自治体で整備することが目的になることが多いが、作るだけでそれが伝わらなくては意味がないので、情報発信にもハード事業と同等に予算も含めて力を入れて進めていただきたい。

(泉PM)

- ・まさに情報発信の専門家の柿原氏も、市から分かりやすく情報発信をするだけでは情報は広がらず、発信力がある人が活動に関わり、その方々が色々な場所で同時多発的に発信すると良いと発言されている。予算もそうだが、北氏など発信力がある人とどのように繋がって発信していくかが大事だと思う。

(永田委員)

- ・昨日も意見交換会に参加した。このプランはまちなかの話かと思うが、まちの外の人も水害の被害にあった方も多く、外からもまちに買い物やお祭りに来る人がいる。もっと外の人の意見も聞いて、まちなかでやろうとしていることや、これから始まるということを伝えないと、みんながわくわくせず、なんかやっているなという印象になると思う。例えば、飲食店の話もあるだろうが、新規の飲食事業が始まっても、既存の飲食店と競合したり、それを担う人がいるのかという話もあると思う。既存の店舗が新たに店舗を増やすということはいいかもしれないが、その場合は市として資金の援助も必要だったり、色々考える必要がある。照明についてもとても良いが、必要などころを見極め要所だけ照らすと良いと思う。中川原公園も店舗やトイレを設置すると水に浸かるのでそこを使うのは難しいと思う。子供たちの遊び場はあると良いなどは思っている。

(泉PM)

- ・何が必要で何がいらぬかということは、2、3年の社会実験で分かると思うので、まずは検証してみたい。子供の遊び場は欲しいと思う。中川原公園やランドバンクの敷地なども活用し、永田氏にも協力いただきながら進めていければいい。既存のお店や人が大切だということは間違いのないので、まずはそこから考えたい。

(岩下委員)

- ・鶯温泉一帯は中心市街地であるため、温泉は作りつつ、その上に立体駐車場を作ったほうが良いと思う。現在は駐車場が少ない。

(泉PM)

- ・ 駐車場の問題は多くの方から指摘されている。ただ現在駐車場がどれほど使われているというデータがないため、来年度に駐車場の利用実態調査をしたいと思っている。いくつかのエリアで調査を行って、どこにどの程度の規模の駐車場が必要なのかを判断したい。

(岩下委員)

- ・ 祭りなど多くの人があるときは完全に駐車場が足りない。私が所有するモナコパレスにも多くの人があるが、現在は駐車場が中心地になく来街者に迷惑をかけていると感じている。

(鳥越委員)

- ・ 観光としては二次交通へのアクセスだと思うので、このようなものができるの良いと思う。観光の目線だと良いプランだと思うが、一方で地域住民として、もう一度災害が来たらどうするかということや、地域のマネジメントする人は減っていくので、照明やデッキの将来的な維持管理はどうするのかということや、長い目線で考えていく必要があると思うし、必要なハードの取捨選択の判断材料になるのではないかなと思う。

(飯島委員)

- ・ アクションプランのとりまとめにはご苦労されたと思う。ワクワクするアイデア集として良く取りまとまっていると感心した。河川管理者としては中川原公園の整備の観点など色々あると思うが、そのような垣根を越えて意見したい。先ほどの意見のとおり、中長期的な維持管理について気になった。日本はこれから人口減少社会が進行する中で、若い人の育成といった人づくりが重要だと思う。このアクションプランを誰がいつ何をするのかという、主語と段取りが必要だと思う。おそらくまだその段階ではなく、長い目で考えられていると思うが、いつまでも事業が続くわけではないと思うので、プレイヤーを育てることを並行して行う必要があると感じた。
- ・ また、全国的にも観光産業を柱にした地方創生が課題になっている。人吉球磨エリアでは、人吉に外から来る際は高速道路を使う必要があるため交通インフラの問題もあるが、そもそもこの場所にアクティビティをしに来ようと思えるプランはあるのかだろうか。アクションプランの中でも回遊の話があったが、人吉市の中でクローズドに考えるのか、より広い範囲で考えるのかということも、人を呼ぶという意味では重要だと思っている。

(泉PM)

- ・ まさに主語が重要だと思うためこの進め方をしている。今は主語を見つけるための仮説をつくったというイメージである。これに誰が賛同していただけるか、その方と一緒にビジョンをブラッシュアップし、社会実験で事業の検証ができるか。例えば、石垣のライトアップなどができた時に、球磨川下りが夜の観光商品を作れないかということや、別のエリアの取組と連携した何かができないかというアイデアが生まれると良いと思っている。ただ、それはイベント的にやっても検証ができず、ある程度中長期で実施する必要がある。そのような事業を考える上での仮説としてのアクションプランだと思っている。

(田口委員)

- ・ 全体的にアクションプランは良くできており、今までにないプランだと感じた。飯島委員も仰った

が、この計画を持続的に生きた計画にするためには、人吉の中にいる人だけでなく、どこまで聞けるのが良いかという判断は難しいが、人吉球磨の各方面の方に意見を聞いた方が賛同を得やすいと感じた。また、水害を受けた身としては、災害は前提に考えるべきだと思っている。特に川に飛び石をつくって遊べるというのは良いと思うが、土砂が溜まるのは問題だと思っている。氾濫を防ぐ対策として、県としても研究していく必要があると思っている。また、土地区画整理事業を行っているが、区画整理後に住む人が居ないと困るので、住む人や商売をする人の確保もセットで考える必要があると思う。

(北委員)

- ・観光事業者の視点としては、人吉市では旅行会社はうちしかないということで、観光ガイドを行っている。ライトアップについてはこれまでも実証実験をしておりそれはそれで素敵だが、外から来る人は、人吉は空が広いと感じており、暗闇の空に感動している人も多く、評判が良いため、そのような視点も考えて欲しいと思う。

(長町氏)

- ・おっしゃる通りだと思う。球磨川の上流からみる下流方向の夕焼けは非常に美しく、ここでしか見ることができない自然の風景だと感じている。霧もここにしかない気配だと感じる。そのようなことも大事にしたい。このアクションプランは空間の利活用やマネジメントからハードを考えるという視点で進めているが、その一方でただ眺めるだけでも価値があるということもある。住民の方も球磨川を眺めることが好きという人も多かった。今回のプランでは、アクティビティも考えつつ、眺める良さも大切にしたいと思っている。照明についてはパースが華やかにみえてしまうが、ほとんどが手すり照明や下方配向で静かな照明でも足元は明るく感じられるような照明にしたいと思っている。

(井上委員)

- ・すごいプランだと思い読ませていただいた。人吉は相良700年の歴史があり、歴史と文化をキャッチフレーズとみんな考えているが、歴史を感じられるところはあまりない。青井阿蘇神社は国宝としてPRされており、他にもたくさん歴史的なものがあるが、なかなか光を浴びていないと感じる。鍛冶屋町通りも頑張られているが、鍛冶屋は一軒もなく、鍛冶屋の風情を感じられる場所もない。大工町・鍛冶屋町・紺屋町・九日町・七日町・五日町とまちはたくさんあるがそれぞれ何も感じない。それについて真剣に考えたい。数字がつくまちは、昔は市があった。それも掘り起こすということもアイデアに加えていただきたい。
- ・また、人吉は温泉が有名になったが、昔温泉は1箇所しかなかった。翠嵐楼が温泉を掘りあてて温泉が広がった。そのように後から生まれた資源もあるということ、私たち市民が知って大事にしていくことも必要だと思う。先日、田舎の方に地域の方をご案内したが、多くの方が自分のまちのことを知らない。70歳のおばあちゃんが50年以上住んでいたのに知らないこともある。私は五日町出身で今は田舎に住んでいるが、地元の方が昔の歴史を知れば自分の土地を大事にすると思う。鍛冶屋町の舗装のライトアップをほめてくれる方もいた。華やかでなくてよい。ライトアップは地味でも良いと思う。あえて地味を売るというのも良いと思う。
- ・子供たちの遊び場というのは難しいことだと思う。城見庭園は子供の遊ぶ場ではなくなっていると感じている。

(吉田委員)

- ・今まで色々と意見があったが、道の駅の活用を考えていただきたい。あれほどの設備がもったいない。人吉球磨は林業・農業が主であり、農業の生産者が増えるようにしてほしい。現在は農家も高齢化が進んでいるが、若者が農業をやりたいと思える場所がほしいと思う。現在の道の駅は寂しい。よその道の駅は活気がある。道の駅の活用を是非よろしくお願ひしたい。
- ・人吉は球磨川があって人吉である。中川原公園は昔から自然のままで今まで活用してきている。昔はサーカスなどの見せ場をつくって、あの広さでも賑わっていた。中川原公園の絵を見ると石垣で囲う構想で人工的なものに見えてしまう。じゃかごにすると水を吸収して長持ちする。じゃかごの中に草木が生える。昔はネコヤナギが生えており風情があった。石垣ではなく、じゃかごを活用してみどりのある自然の島にしてほしいと思う。色々な工法があると思う。私は元々石材屋だったが、別の場所でもじゃかごを使用したところは被害をうけていない。じゃかごは水の圧力を分散する。どうかその方法で検討して欲しい。巨額な金を投資した後に失敗するともったいない。

(松岡市長)

- ・アクションプラン素案に関して、承認いただけるか。
- 承認

(4) 市民／事業者への共有について

【資料2 市民／事業者への共有について】

(泉PM)

- ・このアクションプラン素案は市民や事業者の皆さんと今後一緒にどう動くかを探るための仮説として考えている。意見交換会や事業者WSを重ねていき、このようにまちが変わるということ共有したり、事業者の方の事業や活用のアイデアをもらい、次年度以降の進め方を考えたい。
- ・12月22日にアクションプランの素案をお披露して皆さんに意見をもらい、このような取組に参加したいと思っていただく場としたい。
- ・1、2月は担い手候補の事業者の方と密に議論を行い、具体的にどのエリアでどんなことをしたいか伺いたい。事業者WSは3回実施しようと思っている。
- ・最後にまちなかフォーラムということで、3月15日に復興まちづくりの動きや事業者や市民の来年度以降の活動のイメージを人吉市外も含めて対外的にも発信したい。
- ・また、詳細は決まっていないがよろず相談と1月に記載している。地域の方がまちの動きについて知ることが難しいので、ある期間に市の方にまちなかのどこかに居ていただき、アクションプランについて1週間の間は何でも相談できるというような機会が作れるとよいと思う。
- ・このように意見交換会、事業者WS、よろず相談の機会を設け、来年度に向けて、10のエリアや新しいテーマも含めて動いていければと思っている。

(溝口PM)

- ・12/22の意見交換会にご都合がつくようであれば是非ご参加いただきたい。
- ・上記に関して、承認いただけるか。

→承認

【確認事項】

(5) その他／日程確認：溝口部長 (5分)

【資料3 復興まちづくり推進会議年間スケジュール】

(溝口PM)

- ・ 第3回推進会議は3/14(金)14時から実施する。
- ・ デザイン会議は記載の日程である。

(6) 閉会

(竹内次長)

- ・ 以上で推進会議を終了とする。

以上